

## 第2回

# 越谷市下水道事業運営審議会会議録

令和2年8月5日

事務局：建設部下水道経営課



## 【会議録（概要）】

会議名	令和2年度 第2回越谷市下水道事業運営審議会	
開催日時	令和2年8月5日（水） 午前9時55分～午前11時45分	
開催場所	越谷市役所 本庁舎5階 第1会議室	
件名／議題	<p>【第2回】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 傍聴者の確認及び報告</li> <li>3. 会議録署名委員の指名</li> <li>4. 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中長期の投資試算</li> <li>・ 経営健全化への取組</li> </ul> </li> <li>5. 質疑</li> <li>6. 閉会</li> <li>7. 事務連絡</li> </ol>	
出席委員 (11人)	浅野 要二 委員 白山 真一 委員 宮下 智之 委員 佐藤 勝 委員 中村 千代子 委員 南山 詔 委員	下田 正樹 委員 古屋 秀樹 委員 石崎 一宏 委員 豊田 尚之 委員 酒井 裕載 委員
欠席委員 (1人)	木村 信子 委員	
職員	建設部長 建設部副参事兼下水道経営課長 下水道事業課長 治水課長 下水道経営課副課長 下水道経営課主幹 下水道経営課技師 下水道経営課主事	小川 和彦 松尾 雄一 岩本 昌幸 湊谷 達也 山本 剛 小川 円香 下田 歩美 石川 大

## 審議内容等（要旨）

- 事務局 | 会議に先立ち、以下について了承を得た。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策としてマスク着用及び座席間隔を空けること、パーテーションを設置していること
  - ・ 11時よりJアラートの試験放送が流れること
  - ・ 木村委員が欠席されること
- 事務局 | ○事務局より定数報告  
委員は過半数以上が出席のため、越谷市下水道事業運営審議会条例第6条第2項の規定により会議は成立している。  
また、議事録作成の為、録音等が行われる旨の説明を行った。
- 事務局 | ○議長の決定  
越谷市下水道事業運営審議会条例第5条第3項の規程により会長が議長に就任した。
- ◆会長 | ○開会宣言
- ◆会長 | ○会長より審議会の公開に関する説明  
当審議会は、越谷市下水道事業運営審議会の公開に関する取扱要綱に基づき原則公開を進める旨の説明を行った。
- ◆会長 | ○傍聴者の確認及び報告  
傍聴については、「越谷市審議会等の設置及び運用に関する要綱」に基づきホームページで募集をかけたが、希望者は0名だったことが報告された。
- ◆会長 | ○会議録署名委員の指名  
審議会運営規程第4条第2項に定められている、会議録署名委員の指名を行い、白山委員、宮下委員が指名された。
- ◆会長 | ○議事の上程  
本日の議事は「中長期の投資試算」及び「経営健全化への取組」についてとなります。また、前回の審議会の質疑に関して、未回答の事

項がいくつかあったと思いますので、それらを含めまして事務局より説明をお願いします。

事務局

配布資料の確認後、資料に基づき前回の質疑及び議事について説明を行った。説明内容は以下の通り。

(P1) 表紙

(P2) 1. 第1回審議会質問事項に対する回答 埼玉県と越谷市の関係

資料「埼玉の下水道2019」に基づき、以下の点について説明を行った。

- ・ 埼玉県の流域下水道について
- ・ 流域下水道における埼玉県と越谷市の役割について

(P3) 1. 第1回審議会質問事項に対する回答 越谷市の下水道の施設

越谷市の下水道施設（汚水・雨水）について説明を行った。

(P4) 2. 老朽化対策と地震対策（ストックマネジメント計画）①

老朽化した下水道管は、硫化水素による腐食で穴が開くと、道路の陥没等につながる等について説明を行った。

また、越谷市の汚水管渠は、法定耐用年数の50年を迎えつつあり、更新の必要性がある等、現状の説明を行った。

(P5) 2. 老朽化対策と地震対策（ストックマネジメント計画）②

法定耐用年数を迎える施設に対し、施設全体の寿命を延ばすという考えのもとに策定された、長寿命化計画及びストックマネジメント計画について説明を行った。

(P6) 2. 老朽化対策と地震対策（下水道総合地震対策計画）①

下水道施設が地震の被害を受けた場合に、市民生活や災害対策活動へ与える影響から、下水道施設に関する地震対策の必要性について説明を行った。

(P7) 2. 老朽化対策と地震対策（下水道総合地震対策計画）②

下水管・マンホール・ポンプ場の耐震対策について説明を行った。

1年当たりの対策費用は、下水管・マンホールについては6千万円程度、ポンプ場については1億5千万円程度と試算されていることについて説明を行った。

(P8) 3. 組織の変遷

組織の変遷を示しながら、下水道事業のステージに併せて、組織や人員体制を変更し対応していること等を説明した。

(P9) 4. 下水道経営の現状分析①（施設の状況）

施設の状況に関する指標として、「下水道普及率」・「水洗化率」・「有収率」について、越谷市の実績値及び他団体の平均値を提示した。

水洗化率は、他団体と比較して高い割合となっており、確実な使用料収入の確保につながっていることを説明した。また、有収率は、全国や中核市の平均よりは高くなっているが、県内、あるいは中川流域の平均より低くなっており、引き続き「不明水」を減らす努力を続けていく必要性について説明を行った。

(P10) 4. 下水道経営の現状分析②（収益性）

下水道経営における収益性に関する指標として、「経常収支比率」・「経費回収率」について、越谷市の実績値及び他団体の平均値を提示した。

経常収支比率は100%を超えていることから、一定の収益性、経営の健全性は確保されていることを説明した。また、経費回収率については、前回の料金改定において、90%を目標とする料金体系を設定しており、当面の目標は達成しているが、他団体との比較においては、低い水準にとどまっていることについて説明を行った。

(P11) 4. 下水道経営の現状分析③（資金）

資金の状況に関する指標として、「流動比率」・「営業収益対資金残高比率」について、越谷市の実績値及び他団体の平均値を提示した。

いずれの指標も他団体と比較して低い水準で、手持ち資金の蓄えが不足していることを説明した。また、今後、公共下水道事業が独立採算事業として継続するにあたり、事業に使用できる資金が少ないことは、老朽化対策など様々な課題に対応できない可能性があり、更なる経営改善の必要性について説明を行った。

(P12) 5. 将来の収支シミュレーション（収入）

有収水量及び下水道使用料収入の見通しを提示した。

人口減少へと向かう社会情勢や節水意識の高まり等により、将来の有収水量は減少傾向となると予想されており、それに伴い使用料収入についても、現在の料金体系のままでは、将来的に減収となることについて説明を行った。

(P13) 5. 将来の収支シミュレーション（建設費、維持管理費）

建設改良費及び維持管理費の見通しを提示した。

建設改良費及び維持管理費については、施設の老朽化に伴い修繕や設備の更新投資が必要となること、また、近年全国で多発している地震に備えるための改修も必要となることから、今後も増加傾向となることについて説明を行った。

(P14) 5. 将来の収支シミュレーション（財政投資）

別紙資料に基づき、今後 10 年間の投資計画を並びにその財源を試算した財政投資シミュレーションについて説明を行った。

「当期純利益（又は純損失）は、プラスとなっているが、現金はマイナスとなっていることから、資金不足となり黒字倒産の状況に陥る試算結果となったことについて説明を行った。また、現時点のシミュレーションでは現金がマイナスとなっているが、実際には現金がマイナスの状態での運営はできないことから、収入の増加、支出の削減、未収金の減少等により、収支ギャップを解消する必要があることの説明を行った。

(P15) 6. 収支ギャップ改善の取り組み

収支改善に向けた今までの取り組みとして、支出削減及び収益増加の観点から説明を行った。

(P16) 7. 総括

財政投資シミュレーションとして、具体的に将来の収支ギャップの見込みについてもご審議をお願いした上で、今後の検討の方針としては、従来の方針を継続することを前提とした経営戦略の策定を行うとともに、なお生じる収支ギャップを解消するための適正な料金体系について、さらに審議願いたい旨の説明を行った。

(P17) (参考) 下水道解説動画

参考情報として、下水道解説動画の紹介を行った。

○質疑応答

◆会長

これより質疑応答に入りたいと思います。

ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

◆会長

(P16) 7. 総括において、今後の方針として経営戦略の策定とあるが、具体的にはどのようなものか。

事務局

経営戦略の策定は、下水道経営の指針となるものである。内容としては、今回提示した投資財政計画や従来の施策の維持や収支ギャップ解消の取り組みなどが盛り込まれる。また、指標を設定し目標値なども盛り込まれる為、こちらについても今後提示し、審議いただきたい。

◆委員

下水道料金の未収金の具体的な金額は、(P14) 将来の収支シミュレーション上の流動資産のうち未収金の金額が該当するのか。

事務局

ご認識の通りである。下水道使用料は、2か月に1回の検針ごとに発生し、その分は翌月末を期限として納付頂いている。決算の締めである3月31日までに発生した下水道使用料の内、納付期限が年度を跨ぐものについては、未収金となる。

企業会計移行前の官公庁会計では、5月末まで出納整理期間が設けられ、そこまでに入ってきた分については当年度分として計上される為、未収金にはならないという状況であった。5月末までに入ってくる分を年度内の収入として換算した場合は、下水道使用料の収納率は例年98%程度となっており、本当の意味での未収金として次年度以降の滞納繰越分は残りの2%程度という状況である。

○委員

2%とはどの程度か。

事務局

料金収入の調定30数億円の内、未収金は6千万円程度となっている。



- ◆会長 この6千万円は、督促等を行い圧縮した金額か。
- 事務局 全ての方が納付期限通りという訳にはいかない中で、5年後の収納率を見ると、99.7~8%程度となっており、残りは6百万円程である。未収金については、引き続き収納率向上に取り組む。
- 委員 資料(P10)の経常収支比率について、他団体との差が生じている要因はなにか。また、この比率を上げることは出来るのか。
- 事務局 経常収支比率の収益の面については、下水道使用料収入を上げれば、支出が同様であるとき、比率を上げることが出来る。また、この比率が100%を超えていてもこれだけでは、経営が健全だと言えない。経常収支比率の支出には、費用として現金の支出を伴わない減価償却費が含まれており、全体的な現金の出と入りについては資本的収支との組み合わせで見ていく必要がある。
- 委員 料金を上げることで比率を上げることが出来ると考えて良いか。
- 事務局 他の状況が同様であれば、ご認識のとおりである。
- 委員 (P9)施設の状況について、指標の計算方法をご説明頂きたい。
- 事務局 下水道普及率は、越谷市の人口に対して、下水道を使用できる区域の人口の割合を示している。水洗化率は、下水道を使用できる区域の人口に対して、実際に下水道に接続している人口の割合を示している。有収率は、不明水を含めた総排水量に対して、下水道使用料の対象となる水量の割合を示している。
- 委員 水洗メータで計測した水量とは、何m<sup>3</sup>使ったということか。
- 事務局 ご認識のとおりである。
- 委員 大きく以下3点について伺いたい。  
(P6. 7)の老朽化対策と地震対策について、雨水に関する自然災害に対する下水道施設の対策について伺いたい。地震と老朽化の対策だけでいいのか。また、支出にどういった影響を与えるのか。

(P14) の収支シミュレーションについて、シミュレーションを行った前提条件を具体的に示して頂きたい。前提条件がないと、シミュレーションが正しいか判断できない。

(P15) の収支ギャップ改善の取り組みについて、過去の推移など定量情報・定性情報を示して頂きたい。

事務局 シミュレーションの前提条件については、今回の審議会資料においては主な項目しかない為、次回の審議会又はシミュレーションの前提条件の説明資料ができ次第提示し、参考にして頂くのはいかがか。

◆会長 次回の審議会前までに提示いただくのが良い。

事務局 次回の審議会前までに提示する。

事務局 (P15) の収支ギャップ改善の取り組みについて、過去の定量情報・定性情報の推移と成果については収支シミュレーションの前提条件と共に提示する。

事務局 公共下水道の雨水についてであるが、20ha を超える排水区域を持つ幹線である主要幹線は、河川へ速やかに雨水を排水する施設であり、現在約 98% の整備率となっている。更に、排水施設も 11 施設整備が済んでおり、現状の計画に対しては概ね完了している。また、排水機場などの河川施設の整備も進んでおり、これらは、水災害の被害の軽減に大きく寄与していると考えている。

しかしながら、全国的に災害が激甚化している状況で、降雨は 30 年前の 1.4 倍になっており、21 世紀末には 2 倍以上になるとの予測や、台風の出現頻度の増加や通過経路が変化するといった予測も国から示されている。

このようなことから、国において施設能力を超える洪水が発生した場合に備えた、地域の水害リスクを低減する為の減災対策などを考慮した、流域治水プロジェクトの取り組みを進めております。これらに関して、配布している別紙資料のとおり、越谷市に関連する所として、中川綾瀬川流域治水プロジェクトの素案を作成している。また、江戸川に関しても同様に作成している。

今年度これらのプロジェクトを策定することから、今後の策定に

伴い国の事業の実施や補助政策が変わることが想定される為、越谷市としても国の動向に注視し、新たな事業について整理していきたい。

そういった新たな事業の取り組みを進める場合、事業費の増大が見込まれるが、一般会計からの繰入金で補填される為、下水道の収支ギャップに影響を与えるものではない。

また、今年度において、雨水幹線や洪水ハザードマップ、監視カメラの整備に取り組んでいる。

○委員 豪雨等地震以外の激甚災害が下水道施設に与えるリスクは、ストックマネジメント計画上のリスク評価に含まれているのか。今後の下水道施設の収支シミュレーションに考慮されているか。

事務局 浸水リスクの対策については、ストックマネジメント計画と別に浸水対策として個別に検討し対応することになっている。

◆会長 浸水リスクが甚大となったときに汚水の処理自体も滞ることになるが、それらの対策がどのような前提で考慮されているのか、次回説明頂きたい。

○委員 (P15)の収支ギャップ改善の取り組みについて、不明水対策のこれまでの情報をご説明頂きたい。また、誤接続による不明水の流入対策について説明頂きたい。

事務局 不明水対策の具体的な取り組みについては、次回の審議会前までに提示する資料に含める。

誤接続については問題として認識しており、特に不明水量が多い地域について誤接続の可能性を含めた調査を行っている。また、新規の接続を行う際には、雨水の系統が混ざっていないこと等の検査をしている。

委員 (P15)の収支ギャップ改善の取り組みについて、長寿命化が支出削減として分類されているが、新たに調査による新規のコストがかかるのではないか。

未接続対策に関連して、立地上接続出来ない場合でも、建替え時には、接続頂けるような取り組みをして頂きたい。また、下水道が整備

されていない地域の方々は、下水道を使用したい思いが強くあることから、建設コストは掛かるが、整備に取り組んで頂きたい。

最後に、流域負担金は、1 m<sup>3</sup>当たりの単価が 40 円となっているが、今後上昇する可能性はあるのか。

事務局 長寿命化に伴い調査費は発生するが、調査を行わない場合は法定耐用年数に基づく更新投資をせざるを得なくなる。ストックマネジメント計画に基づき、調査後施設の老朽化等に応じた対策を講じることで、結果として、費用を抑え施設を長く使用することが出来る。未接続対策については、継続的に取り組んでいく。

下水道整備区域内の箇所はまだ下水道が入っていない地域については、道路の幅員等で現実的に下水道を入れることが出来ない所が残っている。これらについては、道路の拡幅等で条件が整った所から順次整備を行っている。

流域負担金の単価については、数年前に 37 円から 40 円へ値上がりしたことがある。埼玉県の施設についても、老朽化が進み更新や修繕が必要となっていることを反映して、数年に 1 回、流域内の市や町と協議し改定が行われる。直近の改定のタイミングでは、40 円の据え置きだった為、今後数年間は 40 円のままの約束となっているが、将来的には、値上げの可能性はある。

○委員 資料に関して一般的にも分かりやすい説明をして頂きたい。また、(P9)の有収率について、中川流域平均よりも低い原因について説明頂きたい。

事務局 今後は、分かりやすい資料や説明を行うように努める。有収率の原因については、越谷市は降水時に不明水の流入が多くなる傾向があることが分かっているが、引き続き原因究明に努める。

なお、不明水をゼロにするのは難しく、下水道の技術指針の中でも 10～20%の不明水は技術的に流入する可能性がある。

○委員 下水道料金は 1 世帯あたりどのくらいか。

事務局 下水道料金は 1 世帯あたりどのくらいかについては、次回の説明の中で提示する。市内の平均的な使用量である 20 m<sup>3</sup>の下水道使用料は、税抜きで 1 か月 2,150 円、2 か月で 4,300 円となっている。

他団体の料金体系と比較したものは次回以降何らかの形で提示する。

○委員 ポンプ施設は有人か無人か。

事務局 基本的には無人。越谷第一ポンプ場については、有人で市内のポンプ場を遠方監視している。災害時などは、水路や水位の状況等の確認の為、現地に人を派遣しパトロールを行う場合がある。

◆会長 他に意見、質問等がなければ、これで質疑を終了する。  
次回審議会は9月上旬を予定している。

○閉会

○事務連絡

次回審議会は9月上旬を予定しているが、改めて会長名で後日お知らせする。

以上、会議録について記載してある内容に相違無いことを確認し、ここに署名する。

令和2年 8 月 28 日

越谷市下水道事業運営審議会

署名委員

白山 真一

署名委員

宮下 智之